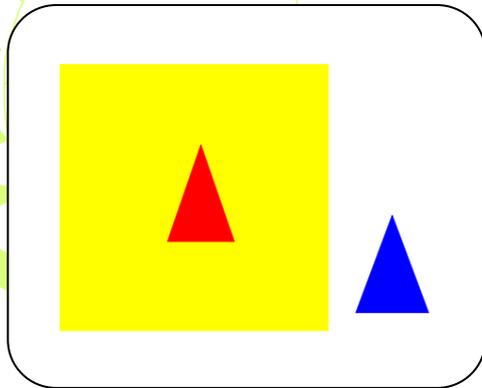


トレー機能を活用した資料を作ってみよう！



トレーとは他のオブジェクトが載せられるように設定されたオブジェクトです。トレーオブジェクトは載せるオブジェクトを限定するような設定もできます。オブジェクトをトレーに載せようとしたときに、指定のプロパティに一致しないオブジェクトはすべて拒否されます。

仲間探しなどの活動をするときに使用する教材に利用すると、楽しい教材が準備できます。

使う機能

図形ツール、プロパティブラウザ

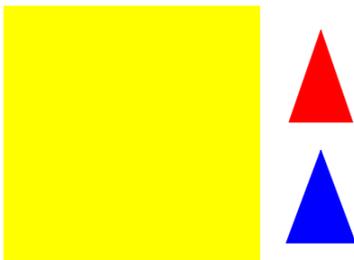
1.



[図形] を選択し、大きな図形1つとそれより小さな図形2つ(赤と青)を作成します

右の例では正方形がトレー、2つの三角形が載せるオブジェクトです

※この例ではプロパティブラウザの[ID]セクションで、載せるオブジェクトの名前を「赤い三角形」に変更しました



2.

大きな正方形を選択します

プロパティブラウザ  を開き、[トレー]セクションへスクロールします

3.

[トレー]セクションでプロパティを設定します。この図では次のように設定しています

(ア) [入れられるもの]を[特定のオブジェクト]に設定します

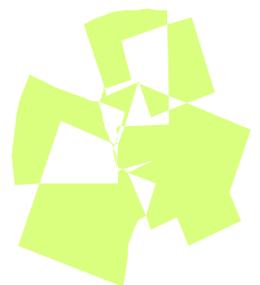
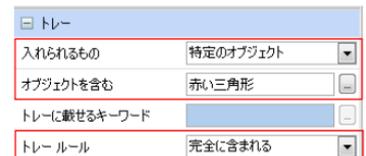
この設定は1つの特定のオブジェクトのみが正方形のトレーに載せられるという意味です

(イ) [オブジェクトを含む]を[赤い三角形]に設定します

この設定により正方形のトレーには赤い三角形のみが載せられます

(ウ) [トレールール]を[完全に含まれる]を設定します

赤い三角形が完全にトレーの中に入ったときのみ三角形を載せられます



4.

次に、載せるオブジェクトを選択します。この例では、赤い三角形を選択しました

プロパティブラウザのトレーセクションで[トレーに載らなかったら戻す]を[正]に設定します

赤い三角形がトレーに完全に載らなかったら、自動的に元の位置に戻ります

トレーに載らなかったら戻す 正

5.

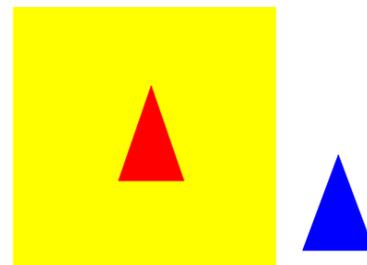
青い三角形を選択し、[トレーに載らなかったら戻す]を[正]に設定します

青い三角形をトレーに入れようとすると、自動的に開始位置に戻ります

※これはトレーに載らないプロパティのオブジェクトについては、完全にトレーに載せようとした場合でも起こります

6.

トレーの動作をテストしてください
この例では赤い三角形がトレーに載り、青い三角形がトレーに載せられません



※トレーに載ったオブジェクトは、クリックアンドドラッグでトレーの外に移動できます。オブジェクトがトレーに載っていないときに、トレー以外の場所にオブジェクトを移動しようとする、オブジェクトは最初の位置に戻されます。

正解サウンドを設定する

正解サウンドはオブジェクトを正しくトレーに載せられたときに再生するサウンドファイルです。ここでは正解サウンドをトレーに設定する方法を説明します。

1.

プロパティブラウザの[トレー]セクションで、サウンドプロパティを設定します

(ア) [正解サウンド]を[正]に設定します

(イ) [正解サウンドの場所]でオブジェクトが正しく載せられたときに再生したいサウンドファイルを指定します

下の例では a.wav ファイルを指定しています

正解サウンド 正
正解サウンドの場所 a.wav

2.

トレーの動作をテストしてください
正しいオブジェクトがトレーに載せられると、サウンドコントローラが開き指定の正解サウンドが再生されます

サウンドコントローラは、「閉じる」ボタンを押すまで画面に表示され続けます

